

◎北陸地方の1か月予報（4月11日～5月10日）

新潟地方気象台 4月9日現在

- ・向こう1ヶ月の天気は数日周期で変わりますが、晴れの日が少ない見込みです。
- ・向こう1ヶ月の平均気温は平年並み、日照時間は平年並み～少ない見込みです。

日を追うごとに気温は徐々に暖かくなります。
徒長苗など苗管理に注意しましょう。



1. ハウス育苗(稚苗)の管理

- ・例年、JA柏崎管内では老化苗の使用が見られます。
- ・腰の低い(葉鞘の長さが短い)ズングリした硬い苗で、安定した初期生育を確保しましょう。

活着が良くなることで、初期の
分けつが発生しやすくなります!

適期に中干しに入ることができ、
穂肥をしやすい稲姿になります!

高品質米

時期	出芽期		緑化期		硬化期	
実施期間	加温	2～3日間	2～4日間		12～13日間	
	無加温	5～7日間				
被覆 換気	<ul style="list-style-type: none"> ・芽の長さ0.5～1cm※を目途に出芽させる。 ※こしいぶきは1cmを目途にしましょう。 		<ul style="list-style-type: none"> ・第1葉が開いたら、シートを取り除く。 ・ハウス内温度が20～25℃以上の場合にはハウスを換気する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的にハウスを開放し、霜注意報などの低温時は閉める。 ・田植え1週間前頃からは夜間もハウスを開放し外気にならす。 	
温度	28～30℃ ※病害抑制（特に細菌性病害）のため30℃以上にしない		昼	20～25℃ ※晴天日は早めに開放	昼	15～20℃ ※晴天日は早めに開放
			夜	15～18℃	夜	10～15℃
かん水	<ul style="list-style-type: none"> ・播種時にたっぷり行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・緑化開始時に土の状態を確認し、乾いていればかん水を行う。 ・土の表面が乾いた場合は、1日1回午前10時までに行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・前半は1日1回、後半は乾き具合をみて午前午後の2回行う。 ※床土の温度低下を防ぐため、午後3時以降のかん水は避ける。 	

2. プール育苗の管理

プール苗は寒いと活着力が劣る為、
暖かい時期に田植えができるよう、計画を立てましょう

注意点

準備 作業	<ul style="list-style-type: none"> ・箱底から大量に根が出るので、箱底に専用シートを敷くか、底孔の少ない育苗箱を用いる。 ・苗床はなるべく均平にし、育苗箱を並べても水が循環できるようスペースを広めにとる。
水管理	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化が終了（第1葉が展開）したら被覆資材を取り、床土面まで湛水を開始する。（緑化終了時に種子根が伸びていない場合は、湛水時期を遅らせる） ・浅いところの水深が1cm以下になったら、苗箱の上まで湛水する。 ・落水は田植え5日程度前に行う。また、弁当肥は落水後に施用する。
換気	<ul style="list-style-type: none"> ・湛水すると夜間の温度が下がりにくく、苗が伸びやすくなるため、ハウスの場合は夜間も開放する。 ・霜注意報などの低温や強風時はハウスを閉め、露地の場合は被覆資材をかける。

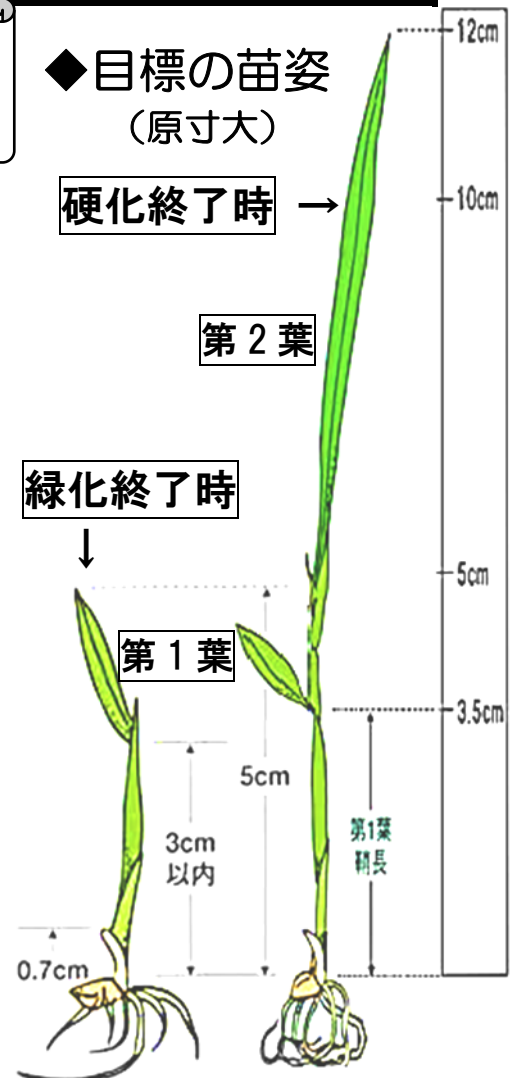
◆目標の苗姿
(原寸大)

硬化終了時 →

第2葉

緑化終了時 ↓

第1葉



3. 弁当肥（田植え前の追肥）を施用し初期生育を確保しましょう！

- 田植え直後の苗は新しい根が生えるまで養分を吸収することができません。
- 田植え前に弁当肥を施用することで苗の活着、分けつ発生の促進につながります。
- 田植え4～5日前に窒素成分で『1g～2g/箱』を追肥しましょう。

資材名（例）	散布方法	1箱あたり散布量（箱あたり窒素成分）
べんとう肥（細粒品）	箱上から均一散布	15～20g（1.2～1.6g）
くみあい液肥2号	かん注	10～20ml（1.0～2.0g）※50倍希釈

※葉やけ防止の為、施肥後は散水し葉についた肥料を流しましょう。また、軟弱苗や徒長苗には施用しないでください。

4. JA苗以外の方へ。箱処理で病害虫防除をしましょう！

- 下表を参考に目的に応じた箱処理をしましょう。

（H27年3月26日 現在の登録内容）

目的	いもち病・初期害虫	初期害虫のみ
品種、条件	早生品種、いもち常発地	イネドロオムシ多発地
薬剤名	Dr.オリゼフェルテラ粒剤	ワンリード箱粒剤08
使用時期	緑化期～移植当日	播種時覆土前～移植当日
散布量 / 散布方法	50g（箱当たり） / 箱上から均一散布	

※JA苗にはファーストオリゼフェルテラ（いもち病・初期害虫に対応）が入っています。

※農薬残留の恐れがあるため箱施用剤は野菜の栽培場所では散布しないでください。

※去年、イネアオムシ(フタオビコヤガ)の多発があった地域はJA柏崎営農指導課までご連絡ください。

5. 注意事項 除草剤の使用方法について

- 田を均平にして田面の露出を防ぐため、また、漏水田での水もち向上のため、丁寧な代かきを行いましょう。
- コスト低減のため、田植え後の一発処理剤の散布を基本としましょう。
- 除草剤を使用する際は河川等への流出による環境汚染を防ぐため、必ず水尻（落水口）を閉めた後に使用し、7日間の止水管理を行いましょう。

初期除草剤の田植え前の施用時期

注意 土壌表面が露出した状態では処理層は作られず、十分な効果が得られません。

やむを得ず、代かきから田植えまで期間が空いてしまい田植え前に初期除草剤を使用する場合は、必ず「7日前まで」に散布してください！

例) 5月8日まで使用可能

例) 5月15日田植え予定

【田植え前日数】



10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
----	---	---	----------	---	---	---	---	---	---	---

当日

田植え日

○ 初期除草剤使用可能

× 農薬取締法違反

【お問い合わせ先】

小国支店	95-2001
上小国支店	95-3100
本店 営農指導課	0257-21-2095
長岡地域普及センター	
小千谷分室	83-0821

柏崎農業協同組合